

「プレゼピオ」

主任司祭 山元 眞

待降節が始まると、どの教会でもクリスマス準備が始まる。教会の内外には電飾が施され、聖堂の入口付近や祭壇の側には厩（うまや）の模型が置かれる。

新約聖書のルカ福音書とマタイ福音書が伝えるイエス・キリストの誕生物語に基づいて、家畜小屋や洞窟に飼葉桶に寝かされている幼子イエス、母マリアとヨセフ、天使、牛、ロバ、羊などの家畜（馬はいない）、羊飼いの、三人の星占い人、星などが配置される。

この模型をイタリア語でプレゼピオという。語源は飼葉桶。

最初のプレゼピオは1228年にイタリア中部のグレッツチョに作られた。

アシジの聖フランシスコが聖書に基づいて救い主の誕生場面を再現。実際の人間と家畜が救い主の誕生を表現した。

ルカとマタイが伝える誕生物語はよく見ると違った表現で救い主の誕生を伝えている。わたしたちが知っているクリスマス物語はこの二つの誕生物語を合わせて編集されたクリスマスストーリー。

別々にしっかりと読み込むと、それぞれ

の福音書が強調して伝えるところが見えてくる。

ルカ福音書が伝えるテーマは貧しさ。お産のために整えられ、準備された家も場所もない。生まれたばかりの赤ん坊は飼葉桶の中に。そこには虫もいただろうし、匂いもしていただろう。すやすやと眠れる場所ではない。新しい命の誕生を祝ってくれる人もなく、救い主の誕生は天使たちによって賤民とされていた羊飼いたちに知らされる。

このように考えると、プレゼピオは、決して綺麗で、美しくて、かわいくて、ロマンに満ちたものではないことがわかる。両親は人々から無視され、泊まる場所もなく野宿する。白い布にくるまれて飼葉桶（家畜のえさ箱）におかれた赤ん坊は、すでにその子の将来の姿、死をも表している。この子は自分を食べ物として与え、受難を受けて十字架刑で殺される。遺体は白い布にくるまれて墓に葬られる。そして復活する。

プレゼピオは時代とともに整理され、まとめられ、今では綺麗な模型になっている。しかし、最初のプレゼピオはそんなものではなかった。臭く

て、貧しくて、悲しかった。しかし、その救い主の誕生は喜びのメッセージとして伝えられた。貧しい人たちに。

プレゼピオは2000年前のものではない。いつの時代も「今」を表している。

今、世界の各地では、とくにパレスチナのガザ地区では、住む家を破壊され、妊婦も赤ちゃんも避難民となって逃げなければならぬ。「救い主」は、わたしたちの手を通して「救い主」になる。叫びをイエスの叫びとして、わたしたちが具体的に手を差し伸べる時に、「救い」が実現していく。

「もつとも小さい者にしてくれたのは、わたしにしてくれたこと」とイエスは言っている。



「久しぶりの『ふれあいガーデンパーティー』」

信徒会長

4年ぶりに「ふれあいガーデンパーティー」が開催されました。前回は4年前のことなのに、遠い昔のことのようです。

平田神父様の時で、ふれ愛だけでなく、建設費の返済のためもあり、皆さん目の色が違って頑張っていたように思います。抽選券の販売、食バザー・物品バザー等での収益確保も大きな目標でした。まだ少し若かったこともあり、最後はミニ運動会の玉入れで締めくくりだったですね。一日がかりの本当にお疲れ様のガーデンパーティーでした。

でも今年は、建設費の返済が完済したこともあり、コロナにうばわれていたふれ愛をとりもどそうをテーマに、午前中で終わる「ふれ愛を中心にした」ものを目指しました。今年から糸島教会の主任司祭になられた山元神父様も加わっての、楽しいひとときになりました。



まず聖歌の「とびたとう」から始まり、山元神父様のご挨拶の後は、じゃんけんゲームで神父様と一番気が合ったのは、なんと最後まで熾烈な戦いを勝ち抜いた工藤さんでした。おめでとうございます！

その後の演芸会では、小話のイチロウさん、にわか鹿山師匠、バンド演奏と洋楽の歌を披露して頂いた井手口さん、佐藤さん、イチロウさん、門田さんに盛り上げて頂きました。この場をお借りし、感謝申し上げます。その後の山元神父様の質問コーナーも、好きなタレント、好きな食べ物など笑いが絶えない企画でした。さらにビンゴゲームでは、趣向を凝らした豪華景品に濱崎さんの思いが伺えました。九大留学生のフランシスさんも参加され、ティッシュとトイレットペーパーの詰め合わせが当たって、とても喜んでおられました。

今年実施できたことは、本当に感謝の一言です。神様に感謝、皆様一人ひとりに感謝です。ありがとうございました。

「信仰生活促進委員会」

委員長 S・N

発足して15年余りの流れの中で3つの委員会が統合、委員の人数が一番多い委員会になりました。活動としては、分かち合い、敬老会の手伝い、ガーデンパーティーの手伝い。増山さんを中心にして祈りの会、病人訪問など。

分かち合いは年に2回、神学生を囲んでの1回と議題を決めての1回。敬老会ではプログラム作成、司会、余興の手配。ガーデンパーティーでは抽選会の司会、ミニ運動会の準備、当日の担当。

それぞれ大変ではありましたがみんなが楽しんでるのを見ると苦労が報われた感じがしました。

2020年コロナウイルス蔓延、4年余りすべての行事が中止になり、歳月と伴に委員会の中心だった方々も後期高齢者、または予備軍になってしまい昔の元気がありません。

少しずつ日常を取り戻していますが、少子高齢化の中で小教区の行事も簡素化されています。時の流れの中でしかたありませんがこれから手伝える事があれば力を合わせ協力していきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。



「教会訪問」

〈直方教会〉

6月21日水曜日、直方教会を訪問しました。申神父様による有意義な勉強会と、楽しい分かち合い会ができました。
この日のために準備し、また当日お世話下さった皆様に感謝いたします。ありがとうございました。



〈二日市教会（祈りの会）〉

12月5日火曜日、竹内神父様が司牧されていらっしゃる二日市教会を訪問しました。



久しぶりにお会いした竹内神父様は穏やかな笑顔で私たちの訪問を喜んでくださいました。

二日市教会は、今年五月に落成式が行われたばかりの美しい新築のお御堂でした。

「また来てね！」とのお言葉を頂きましたので次回は祈りの会のみならず多くのご参加を呼び掛けたと思います。

〈飽浦教会の方々による教会訪問〉

7月6日木曜日に岡神父様と、飽浦教会の信徒を含む長崎南地区女性の会の信徒の皆さんをお迎えしました。



皆さんで糸島の自然も満喫していただいたようで、松ぼっくりを拾って帰られた方も多かったようです。

機会がありましたら糸島教会からも飽浦教会を訪問したいですね。

富の里ボランティア募集!

富の里は、養護老人ホームで30年以上も続いているボランティア活動です。今は、福岡地区女性の会の社会奉仕の一つの活動になっています。以前は、大名町教会、西新教会、浄水通教会、笹丘教会の方々も一緒に活動していましたが、今では皆さんご高齢になり卒業され、糸島教会のメンバー7名で活動しています。

1年に10回だけの小さな奉仕です。2～3回参加するのもOK!

お待ちしております♪

門田、または吉村までお声かけください

★活動日…毎月第二木曜日（8・12月を除く）
10:00～12:00

★活動内容…

（富の里）車いす清掃、布団カバーかけ等
（自宅）清拭縫、名札付（アイロン使用）等

※どちらか



子どもの集い

年間を通して、子どもたちの交流と学びの機会を提供して下さった先生方、保護者の方々、お手伝い下さったすべての方々に感謝申し上げます。



名前 ()
 わたしは子どもの集いがとても楽しいです。
 とくにそうめん流しが楽しかったです。小学
 校ではできないことが子どもの集いで
 できるのでうれしいです。これから子ども
 の集いに行きたいです。



名前 ()
 すごく楽しかったです！
 (さあ、つりがよのしからた！)

名前 ()
 小さなお子もたちが中心で、中高生は^{主に}私一人ですが、
 その中でも楽しいアイデアを出し、時間をかけて準備をして
 くださるリーダーの方々に^{たいへん}感謝しています。私も将来、こんな風に
 充実した時間になる教会学校作りに携わりたいです。



名前 ()
 たのしかったです。そうめんが「か」いちばんたのしかったです。

名前 ()
 いつもとてもたのしいです。子どもは、きょうかいか
 たのしいとおもいきがあまりないから、ありがたい
 です。じゅんびをしてくれているひとたちにかんしゃ
 しています。



名前 ()
 (ま)キウキウのボールを捨つのが楽しかった！
 輪投げを投げるの、魚つり、ドーナツを噛む(パン食い競争)
 ぜんが楽しかった！



名前 ()

子どもの集いの通してたくさんのお友だちと親父(信仰者)と
深められ、新しい出会いがあったり、より深く相手のことを知る
きっかけになったり、1回1回の集まりがどれも充実して時間はいっぱい。
子どもは「今回は何をやるんだろう?」と楽しみにしており、教会に来た
のきっかけになっているので親心も嬉しい。



子どもの集いの日には予定が入るなどして、ほとんど参加できませんでしたが、ふれあいガーデンパーティに親子で参加出来ました。神父様の人柄を知れ、他の信者さんたちの優しさにもふれて、糸島教会全体の雰囲気を知ることが出来て良かったです。わが子はビンゴゲームをしたのは初めてで、いつビンゴになるかわくわくしながら発表される数字に一喜一憂していました。子供の遊びコーナーでは金魚すくいが一番ハマっていたようです。魚釣りも好きなので機会があれば遊ばせたいです。子供の集いに、ほとんど参加できなかったので来年度はたくさん参加したいです。



名前



参加する子どもたちの数は99人ですが、教会学校の先生方がたくさん楽しいイベントを考えてくださり、「教会学校に行きたい!」と思う子どもが増えたと思います。また、大の留学生の皆さんも参加してくださり、子どもたちと交流をしていることもとても良い機会だと思えました。

名前



今年は遊びや交流を深める活動が計画されていて毎回楽しいです。もう少しあそびでは、保護者も留学生も参加して、汗がまき走って、笑い合った日でした。



名前



子どもたちが、活動に積極的に参加している姿が、いいねと思います。みんな楽しそうでした。私も楽しい時間を過ごしました。

名前



30ヶ所で活動していた「日曜学校」を、昨年度後半から「子どもの集い」と称して再開しました。参加家族は6家族ほどで、子どもの数も13名ほどです。また、林の留学生も参加してくれています。スクリーン中心ですが、活動の中で、教会も悪くない「華やかな」と感じてもらえるようにしていくこと、子どもが「親さんの祈りや協力によって、少しずつですが、その方向にむかっていると思えます。まだ、参加したことがない子ども達、来るときだけいいので一緒に遊ばませんか。次の予定は、2月4日(日)たごびりたごびりです。

七五三の祝福



「分ちあいの集いに 参加してみてもいい」

T・M

私は戦争を経験したことのない時代に生まれ、今回戦争についてどう思うか若者目線で話してほしいと言われた時に、自分が何を話せるのかとても考えました。

しかし、戦争がどういいうものか知らない時代にうまれたからこそ話せることがあると思いい、今もし自分の住んでいるところで戦争が起きたら、原爆が落とされたら、自分の身に起こったらと自身に置き換え考えてみたり、当時の人たちがどのような思い出すごしていたのか、長崎での修学旅行や亡くなった曾祖母の話など自分の経験を思い出しながら思いを伝えました。

突然、平和だった日常が奪われ大切な人がいなくなる。もしも生き残れたとしても何か残したら良いのか、それでも生きていくしかない。

どうして普通に生活していた何の罪もない人たちが死ななければならぬのか。戦争を始めた、指示を出している人たちは今も生きているのに。考えれば考える程、何故？や怒り、悲しみなど様々な感情が出てきて心が苦しくなりました。



何気なくすごしている今がどれだけ幸せなことか、もし戦争の無い時代に生まれていたらどれだけ幸せだろうと色んな人たちが願った、そんな平和な時代に生まれた私や子どもたち。当たり前になっっているけど、当たり前じゃない今のこの日々を神様に感謝すると共に平和な世界になることを願い、自分に出ることを日々積み重ねていきたいと思えます。

「敬老会」

9月24日、



敬老のお祝いが行われました。みなさま、これからも益々元気、教会活動の見守りと支えをお願いいたします。

「最後の福岡神学院祭」

K・U

来年度から東京カトリック神学院と統合してしまふと聞いて今年初めて神学院祭を訪れました。とても美しい建物で、森山信三司教様の説教にもあった通り神学院の建設に尽力した神父様方の思いが伝わるような雰囲気でした。

また、たくさんの方々が来ていたことからとても愛されていたことが伝わりました。



神学院の長い歴史に幕が下ろされ、なくなってしまうことに悲しさを感じると同時に、神学生の減少の深刻さを痛感しました。

福岡教区では神父様の人手不足から一人の神父様が複数の教会を兼任されている現状があり、私が所属している糸島教会でも山元神父様、山口神父様のお二人が交代で司式して下さっています。そんな状況下で海外から来てくださっている神父様方にも改めて感謝の気持ちを伝えたいと思いました。

1人でも多くの方が召命の道に招かれることを祈りながら、教会の存続の為、私たち若者が信仰心を持ってこれからも教会に通い続け、次の世代に繋げていけるような活動を行っていきたいです。



「ミサと黙想の学び」

広報委員

9月13日から、レナト神父様による平日ミサに与ることが出来るようになりました。

第一水曜を除く、水曜日10時からです。(変更がある場合、お知らせに掲載されます。)



10月25日からは、ミサ後に時間のある方と神父様とで、みことばの黙想について学び実践する時間も持たれています。

みことばを黙想する象徴として、聖書をテールの中心に置き...といった環境づくりから始まり、聖書のことばを繰り返すことで自然に黙想へといざなわれること。分かち合いでは、各自自発的にありのまま、感じた事をお互いへのプレゼントとして共有すること。(だから話したくない人は話さなくて良い)等々「目からうろこ」のひとつでした。

そして、神父様から「学べば自分たちで集って御言葉の黙想ができますよ。頑張つて。」との御言葉頂きました。

レナト神父様、今後とも宜しくお願い致します。

「おめでとう」ございます！

9月17日、G・L・Aくんの洗礼式がおこなわれました。

本日洗礼を受けましたが、これからもさんを糸島教会の家族として、よろしく願います。



D・G

8月16日、J・PさんとS・Mさんの結婚式がおこなわれました。

「こんにちは。皆様、昨日はありがとうございました。どうぞございました。

わたしもJも、胸いっぱい、じわじわ感動が続いております。色々ありがとうございました。

また、撮影もありがとうございました。



帰りましたら拝見し、イギリス、カナダの親戚、友人に送らせて頂きたいと思えます。感謝でいっぱいです！これからもどうぞ宜しくお願い致します！また糸島教会へ伺わせて頂きたいと思えます。

12月9日、K・DさんとK・Hさんの結婚式がおこなわれました。

結婚に先立ち、Kさんは11月26日に入信式を、12月3日に受洗をなさいました。

「12月9日、糸島教会にて、山元神父様の司式で挙式をさせて頂きました。

2人の希望である、誓いの言葉を重視した式で、神様のお恵みの中で、互いに誓い合うことができ感謝の気持ちでいっぱいです。

これからの歩みが神様と共にありますように、共に祈りを捧げていきたいと思えます。



K・d & H



「真夏のクリスマス」



K・M

ご縁があつて二十年来、フィリピンの子供たちの就学や生活上のためのお手伝いをさせて頂き、数年前までは毎年一、二回フィリピンを訪問していました。

ルソン島の中部に、マニラ、ケソンに次ぐ大きな都市バギオがあります。標高が高いため過ごしやすく「フィリピンの軽井沢」と名付け、いつも二週間ほど滞在していました。

バギオ市郊外に、日本の JICA が創設した「ベングット県立医療センター」があります。院内に、病院職員のほか公務員や大学の職員や学生等が参加している Medical-Dental Mission というメンバー五十名ほどのボランティア団体があります。

メンバーは年に数回、山岳地帯に点在して住む少数民族の無医村を訪問しています。自分の寝袋や食料のほか医療器具や医薬品、住民に届ける衣類や日用品などが詰まった大きな荷物を背負い、金曜日早朝出発し険しい山道を一日歩いて村に着き、土曜日は診療、健康相談や指導、衣類や日用品を配布、子供たちと一緒に遊び、日曜日また一日かけて下山し、夜遅く病院に帰り着き、次の日は何事もなかったかのように、それぞれの職場に向かうのです。

いつも和気藹々とまるでピクニックに行くように楽しんでました。

この活動は、雨期に入る前の三月、四月に行われるので、日本から毎年二、三名の高校生や大学生を同行させて頂き多くのことを学ばせて頂きました。

ある年、年末に訪問することになりました。

マニラ空港の到着ロビーには大きなクリスマスツリーが飾られていました。数時間前、関西空港でダウンジャケットをスーツケースに押し込んできたことも、今が年末であることもすっかり忘れていた私は「何これ！真夏にクリスマス？」と言って皆に笑われました。

前述のグループメンバーは、クリスマス前の一週間を山行とは異なるハードスケジュールをこなしていました。仕事が終わった夕方から夜にかけて、幾つかのグループに分かれて各家庭を回り、ミニチャリティコンサートを催すのです。

どの家も、家庭祭壇やリビングをツリーやリース、リボンや花で綺麗に飾りクリスマスを迎える準備ができていました。家族と一緒に折りメンバ―は仕事の合間に練習してきたクリスマスキャロルを数曲披露した後は、コーヒーやケーキ、フルーツのおもてなしを受けながら談笑し、次の家に向かいます。食事を準備していただく家庭もありました。

門に銃を持ったガードマンがいる大邸宅にも伺いました。マニラやケソンのスラムの子供たちの家庭を訪問していた者には、ドキッとする一瞬でした。

出張コンサートで頂いた浄財で衣類や日用品を購入し、クリスマスイヴにサンタさんに扮したメンバーが、クリスマスキャロルを歌いながら

医療センターの各病室を回り、一人一人にプレゼントを渡します。日本から送ったぬいぐるみや衣類も、小児病棟の子供たちに喜ばれました。

トナカイに乗ったサンタさんには出会えませんでした。話せない、歌えない、役立たずのお邪魔虫を快く受け入れてくださった、汗ビッシュヨリの大勢のサンタさんと心優しい人々に出会えた「真夏のクリスマス」の思い出です。

「申神父様へ」

九月五日祈りの会の日、申神父様が韓国の神学生二名と共に糸島を訪れてくださいました。

茶話会では、その日の福音の中の一節を取り上げられ、いつものように熱く深く情熱を持って説いて頂きました。これまでも神父様は私達にたくさんのお愛を持って、イエス様の事、主なる神への愛と隣人への愛の努めが大事であること、そして何よりもミサが大切であることをくり返しくり返し教えてくださいました。心から感謝の念に絶えません。

今、韓国で療養中の神父様、どうぞ十分に休養されてお元気になるなられたらあの優しい笑顔をまた見せてください。

神父様の口癖だった「早くイエス様に会いたい、今すぐでも」

いえいえ、迷える羊がまだまだいっぱいです。どうかこれからもイエス様の愛を伝え続けて頂きたいです。

私達はこの回復を心から願ひ、お祈り致しております。

祈りの会一同より



今年もWさんからクリスマスカードを頂いています。有難うございます。皆様ご活用ください